

厚生労働省は現在、公式サイトで「マスクは症状等ある方が、飛沫によって他人に感染させないために有効です。一方で、他人からの飛沫を防ぐ予防効果は相当混み合っていない限り、あまり認められてはいません」という表現をしています。

日本中の多くの園や学校で「子どもたちが常時マスクを着用しなければいけない」というような状況になっているのは、一体なぜなのでしょう。

マスクの着用はもともと「お願い」でしかなかったのに、私たち一人一人がいつのまにか、自ら「義務」のように思い込んでしまっているのかも知れません。

「マスクをしたい人はすればいいし、したくない人はしなくていい」そんな当たり前の感覚を、私たちはそろそろ取り戻す必要があるのではないのでしょうか。

2021年に始まった「コロナワクチン接種」ですが、1回だけでなく2回、そして次は3回と、政府やメディアが推奨しています。

子どもたちの接種年齢もどんどん引き下がって、まもなく私たちの子どもたち全員が対象になってくることなのでしょう。私はこのことについて、大変憂慮しています。

「マスクの着用」と同じく「ワクチン接種」も任意であるはずですが、しかし実際には、私たちが自ら同調圧力を生み出し、互いに強制し合っているという、何とも異常な状況を作り出してしまっている気がしてなりません。

今後は「ワクチンパスポート」までもが施行されようとしており、施行されれば、ワクチン接種は事実上の強制ということになりかねず、とても心配です。

「例年のインフルエンザと死者数が同程度である」ことが明らかになっている新型コロナウイルスの感染症対策として、なぜそこまでする必要があるのでしょうか。

私たち保護者の共通の願いは「子どもたちの心と体が豊かに育つ、健全な環境を与えてあげたい」ということではないかと思えます。

そう思った時、私たち保護者同士が、もっと積極的に情報の共有や意見交換をしてつながりをもっていくことが、子どもたちを守るために必要だと強く感じるようになりました。それで今回、勇気を出してお手紙を書かせていただいた次第です。